

Title	<紹介>堤和博著『歌語り・歌物語隆盛の頃一伊尹・本院侍従・道綱母達の人生と文学ー』
Author(s)	木下, 美佳
Citation	語文. 2008, 90, p. 57-58
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69109
rights	
Note	

## The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

―伊尹・本院侍従・道綱母達の人生と文学―』堤和博著『歌語り・歌物語隆盛の頃

るためには、『蜻蛉日記』に焦点を当てる前に、まず道綱母を取氏の関心は、このような問題意識に由来する。この問題を究明すらな時代において、なぜ道綱母に『蜻蛉日記』が書けたのか。堤集の物語化という傾向は、私家集においても見られ、十世紀後半集の物語化の傾向を有するという特色をもつ。この、歌現が見られ、物語化の傾向を有するという特色をもつ。この、歌現が見られ、物語化の傾向を有するという特色をもつ。この、歌現が見られ、物語化の傾向を有するという特色をもつ。この、歌現が見られ、物語化の傾向を有する前に、まず道綱母を取りない。

り巻く当時の文壇の状況を見極めることが必要となる。

本書は、【第一部】歌語り・歌物語隆盛の頃―伊尹・本院侍本書は、【第一部】歌語り・歌物語隆盛の頃―伊尹・本院侍成から成る。

歌集編纂のあり方や、文壇の様相、虚構の意図への考察が纏めら弟が深く関わる作品が取り上げられ、歌語り・歌物語隆盛の頃のまず、第一部では、伊尹・兼通・そして道綱母の夫兼家の三兄

れている。

Iでは、伊尹の作である『一条摂政御集』の他撰部に、本院侍任・北の方恵子女王・小野好古女との、歌語り的な歌群が見られている。伊尹没後の歌集には、歌の配列に時間的な虚構が見られること(第一章)、他尹を取り巻く歌語り・歌物語的なものは、の歌集には、歌の配列に時間的な虚構が見られることが指摘されている。『一条摂政御集』にも登場する本院侍従については、続くⅡの『本院侍従集』で取り上げられている。兼通を男主人公とするこの歌集には、歌の配列に時間的な虚構が見られることや、兼通を惨めな人物に描こうとする意図がうかがえることから、編纂者はたいに、第一章)、伊尹を取り巻く歌語り・歌物語的なものは、の歌集には、歌の配列に時間的な虚構が見られている。『一条摂政御集』の他撰部に、本院侍が分析されている。

と、完全には合致しない例(第二章)が示され、散文における歌

語りの享受の様相が分析されている。

丹念に先学の指摘の妥当性を洗い直していく氏の姿勢には、敬服 はない。それぞれ論を支え得る個々の作品論においても、たいへ 向かいたい気持ちが強い」とのことである。今後の論考がまたれ するばかりである。氏は、今後、「当時の文学圏全体像の把握へ ゆる状況の可能性を探られた上で、それを精緻に考証されている。 れたものばかりが挙げられている。用例数が少ない場合は、あら 言葉の一致という程度というものではなく、事情や場面も配慮さ ん詳細な解釈が施されている。本書で取りあげられている用例は、 もとにまとめられているのはもちろんである。しかし、抽象論で 本書は、歌語り・歌物語隆盛の時代を掬い取る、大きな構想の

(和泉書院、二○○七年一○月刊、四一九頁、一二、六○○円)

本学大学院博士後期課程-